

# 二松學舎 松苓会報



## CONTENTS

- P2 会長再任・学長就任挨拶
- P3 令和元年度 第24回松苓会定期総会開催
- P6 松苓会各支部活動報告  
北海道支部・青森県支部・岩手県支部・茨城県支部・群馬県支部  
埼玉県支部・千葉県支部・東京都支部・神奈川県支部・長野県支部  
近畿連絡協議会・福岡県支部・大分県支部
- P12 同期会・OBOG会
- P13 大学だより
- P15 教員免許状更新講習
- P16 改元「令和」によせて
- P17 卒業生だより
- P18 会員からの便り
- P20 松苓会の認知度調査集計結果
- P21 松苓会新役員・副会長就任挨拶
- P22 学生会員だより
- P24 学生の活躍 編集後記

## 会長再任に当たって

二松學舎松茶会会長 廣田 克己



本年度の定期総会で2期目の二松學舎松茶会長に就任致しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1期目を振り返りますと、神津賢一郎前会長の後を受けた4年前は、①母校との協調、②松茶会活動の活性化、③創立85周年記念事業の実施、等の継承に加えて、④松茶会の将来を見据えたあり方の検討を課題にしたのスタートでした。

①、②は4年間の活動を通して努力してまいりました。「父母会」との交流や父母懇談会などへの協力、「学生会」との交流、松茶会報への学生の参加、学生主催の行事の見学等、年間を通して参加してまいりました。以前にはなかったものも多く、雰囲気は確実に変わってきたという印象を持っています。

③は松茶会の単独事業として初めての周年事業であったため、課題は残しましたが、次の段階に進む良い

機会になったと思います。

④を検討する「基本問題検討委員会」は就任の年の総会に提案し、承認戴いた取り組みでした。2年目に創立記念事業を実施したため、実質は2年目後半からの活動になりましたが、25回に及ぶ会議の結果、答申をまとめて戴きました。その過程で2回の中間答申を戴き、就任2年目の総会では「松茶会奨学金を貸与から給付に変更」、3年目には「学生会員の規約への位置づけ」を承認戴きました。そして4年目の本年度の総会で「答申書」を報告させて戴きました。この間、委員をはじめ関係の皆様には大変なご尽力を戴きました。松茶会に対する熱い思いがあったればこそ成しえたことと思えます。心より感謝し、お礼申し上げます。

さて、2期目のスタートにあたって私に課せられた使命は、申すまでもなく基本問題検討委員会の答申の具現化です。しかし松茶会の将来像を、という大きな課題は一人ではどうにかなるものではありません。会員の皆様のご理解とご協力なしにはできないことです。皆様のお力を引き続きお貸しください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 学長就任のご挨拶

二松学舎大学学長 江藤 茂博



ければなりません。本学のこれからの展開に、ぜひご協力いただきたいと存じます。

卒業生の皆様、お元氣のことと存じます。皆様の母校二松学舎大学は、漢学塾として国漢の旧制専門学校を前身とする、いわば个性的であるとともに存在感のある教育研究機関として今日に至っております。19世紀に設立された二松学舎でありましたが、20世紀から21世紀と移り変わり、さらなる社会環境の変化と多様化する価値観に対応できる高等教育機関でなければなりません。二松学舎の歴史を振り返ると、20世紀の前半までは、社会や制度の変動のなか、必死に自ら変わろうとしてきた軌跡を見せています。この時期は、卒業生からの尽力によって、さまざまな危機を乗り越えることができたと言いうことができます。21世紀を迎え、高度情報化社会と少子高齢化社会が重なりながら、私たちの生活環境も具体的に変わってきています。二松学舎大学も、良き伝統を守るとともに、さらに時代に応じたものを手にしな

先日、旧知の役者さんたちと会食していたら、そのひとり、かつて仮面ライダーを演じていた村上弘明氏が、二松学舎大学の先生が書いた受験参考書で勉強したと懐かしそうに話してくれました。私と二松学舎大学との関りもまたそうした国語教育関係から始まります。後に知るのですが二松学舎専門学校の元教頭で理事がいらつした都内の私立高校に、たまたま非常勤講師の仕事をお願い合わせたところ、その方との面接となり、当時院生だった私は呼び出されました。国語科と社会科の免許を私は持っていて、どちらかといえど社会科を担当したかったので、国語をやりなさい、と。その後の私の国語教師人生はここから始まりました。村上にしても私にしても、まだ多くの人がそうであるように、国語教育関係を通して二松学舎との出会いは多いのでしょうか、これからあらゆる方面で二松学舎との出会いが生まれる大学になって欲しいと思いますし、そうあるように努力したいと思います。



# 令和元年度 第24回松苓会定期総会開催

令和元年度定期総会が6月8日

常任幹事

(土) 12時30分から二松學舎大学九段1号館11階会議室で開催された。

来賓として五十嵐清常任理事(水戸英則理事長代理)、江藤茂博学長、をお迎えし、本部役員、及び全国から36支部の支部長が参加した。

出席者は次のとおりである。

### 来賓

五十嵐清 常任理事

江藤茂博 学長(相談役)

神津賢一郎(顧問)

### 本部

廣田克己(会長)

新井喜義・山崎正伸(副会長)

小林公雄(幹事長)

### 幹事

山崎郁紀(北海道地区)

宮本義孝(東北・岩手県支部長)

辻 将一(関東・千葉県支部長)

小島貴雄(中部・富山県支部長)

武内昭徳(近畿・兵庫県支部長)

大西邦美(四国・香川県支部長)

宮崎宣幸(九州・宮崎県支部長)

金城健一(沖縄・沖縄県支部長)

小林孝彰・持田賢一・金井 康

星野優子・小町邦明・大淵俊明

山口洋子・中原敬二

### 監事

畠山幸治・木村誠次

### 支部長

増井義昭(北海道)・鈴木隆博(秋田)

齋藤 裕(山形)・北村 博(福島)

沼田俊明(茨城)・櫻井哲夫(栃木)

高柳 薫(群馬)・青木一弥(埼玉)

矢澤喜成(東京)・板山俊介(山梨)

関 保典(長野)・坂井福作(新潟)

菅野成也(石川)・中道佳宏(福井)

永井陵次(静岡)・小川直紀(三重)

齋藤 衛(大阪)・明治利隆(和歌山)

小谷章公(鳥取)・永瀬 清(岡山)



第24回定期総会

大倉明子(徳島)・上田善達(愛媛)  
戸田 浩(高知)・永淵道彦(福岡)  
黒瀬孝志(長崎)・申斐啓一郎(大分)

### 事務局

間宮美喜

総会は大淵俊明幹事の司会により、開会が宣言された。続いて前年度総会後に物故された松苓会員及び大学関係者への黙祷があった。

司会から構成員81名中、出席者59名、委任状18名の合計77名との報告があり、総会の成立が確認された。

廣田会長の挨拶の後、来賓の水戸理事長代理の五十嵐常任理事から、N2030プランの内容等を含む挨拶があり、続いて江藤学長からは、出発点が漢字塾ならではの国際化による存在感のある大学を目指したいとの挨拶があった。

山崎副会長を議長に選出の後、書記に西園隆士常任幹事、中原敬二幹事を指名、議事録署名人には平野光治常任幹事(神奈川支部長)、高柳薫群馬支部長が指名された。

### 総会次第

#### 議案

- 1 平成30年度事業報告
- 2 平成30年度収支決算報告並びに監査報告
- 3 令和元年度事業方針並びに事業計画案
- 4 令和元年度松苓会予算案

- 5 役員改選について
- 6 学校法人二松學舎評議員候補者の推薦について

### 諸報告

- 1 基本問題検討委員会答申書
- 2 法人との連絡協議会報告
- 3 支部運営等のお願
- 4 その他

### 議案審議

次第に沿って、議案の審議があり、1号議案から6号議案まで異議なく承認された。

5号議案の役員改選では、役員候補者選考委員会の推薦を受けた、次の候補者が新役員に選出された。

- 会 長 廣田克己(再任 文38)
- 副会長 持田賢一(新 文40)
- 同 家永 修(新 文44)
- 監 事 小林憲二(新 文38)
- 同 田邊義博(新 文47)
- 6号議案については、廣田会長から提案があり、異議なく承認された。
- 学校法人二松學舎評議員候補者  
家永 修(次期副会長)  
高柳幸雄(現常任幹事)

### 諸報告

基本問題検討委員会の最終答申報告があった。その概要は次のとおり。答申は、松苓会のあり方、事業・活動、組織・運営、財政・会費、会則等規程整備など、松苓会活動全般にわたる内容となっている。

(1) 松苓会のあり方では、松苓会の認知度の実態把握のため、アンケート

1) ト調査を実施した。認知度は極めて低く、卒業生の帰属意識の向上には、大学在學生に対する施策が必要であるとしている。

(2) 事業・活動では、在學生を対象とした新規事業として入学式(新入生)に記念品、古書のリサイクル(松苓会古書店)。松苓会人材バンクの設置など。

(3) 組織・運営では、現在の都道府県支部に加え、卒業期別会(同期会)を設け、地区代表と期別会代表で構成する審議会(現行の幹事会に相当させる)が松苓会の最高議決機関とすること、現行の総会に代わるものとして誰もが参加できる松苓会年次大会の開催を提言している。

(4) 財政・会費では、特別会計、特に終身会員積立金の見直しが提言されている。

(5) 会則・細則等の規程整備



総会前に開かれた幹事会

会則全般にわたる点検、さらに組織変更などを盛り込んだ会則改正案が示されている。なお、組織変更の実施に当たっては、長期的視点で段階的に、移行措置等を講じながら実施する必要があると提言されている。

松苓会の認知度調査(アンケート)集計結果は、本誌20頁に掲載。

### 二松學舎松苓会幹事会

総会に先立って、幹事会が午前11時から開催された。本部の三役、常任幹事、幹事、監事の33名が出席(構成員43名。他に委任状8名)、総会に提案する議案についての説明とそれぞれに対する審議が行われた。

総会に提案する議案について理解を得られ、短い時間の中で効率的に



懇親会参加の皆さん

進行された。

### 定期総会後の懇親会

定期総会後の懇親会は、大学九段1号館13階のラウンジで行われた。総会参加の支部長、本部役員など40名が参加した。本年度は学生会員の



懇親会風景



はじめて参加した学生会執行部の学生

代表として学生会長ほか学生会執行部の3名が参加し、和やかな会となった。

### 支部長交代

宮崎県(令和元年7月1日付)

新 内村厚夫(文44)

前 宮崎宣幸(文41)

千葉県(令和元年8月4日付)

新 河野千津子(文49)

前 辻 将一(文45)

広島県(令和元年8月9日付)

代行 金子 徹(文50)

前 平岡才二郎(文26)

### 役員改選後の常任幹事会開催

新役員による最初の常任幹事会が令和元年7月20日(土)に開催された。

廣田会長から、今期の取り組みとして、基本問題検討委員会答申の具現化、松苓会活動の電子化(情報化社会への対応)、活動停止状態支部への積極的な働きかけなどが重点項目となるとの説明があった。

基本問題検討委員会答申の具現化に向けて、常任幹事会のもとに、次の5つの部会を設けた。

- 第1部会 学生会員・期別会組織
- 第2部会 組織改革・会則改正
- 第3部会 新規事業
- 第4部会 現行事業と情報化対応
- 第5部会 経理問題

令和元年度 松茶会予算

平成31年4月1日～令和2年3月31日

Table with 2 columns: Item Name and Amount. Includes sections for Income (収入の部) and Expenses (支出の部) with various sub-items like membership fees, printing, and support activities.

令和元年度 松茶会特別会計予算

Table with 2 columns: Item Name and Amount. Details the budget for special accounts including fund income, annual activity savings, and scholarship funds.

会計監査報告書

平成30年度(平成30年4月1日～平成31年3月31日)の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

二松學舎松茶会監事 畠山 幸治 ㊟
二松學舎松茶会監事 木村 誠次 ㊟

平成30年度 松茶会収支決算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

Table with 2 columns: Item Name and Amount. Includes sections for Income (収入の部) and Expenses (支出の部) with various sub-items like membership fees, printing, and support activities.

平成30年度 松茶会特別会計決算書

Table with 2 columns: Item Name and Amount. Details the actual results for special accounts including fund income, annual activity savings, and scholarship funds.

平成30年度会計収支決算は以上のとおりです。

平成31年4月23日
二松學舎松茶会会長 廣田 克己 ㊟
二松學舎松茶会事務局 間宮 美喜 ㊟



# 松茶会各支部活動報告

〔出席・参加者欄は敬称略〕

## 北海道支部

◆支部総会 事務局長 若松顕仁

新しい「令和」の時代を迎えて初の支部総会を、令和元年8月17日（土）札幌市にて開催いたしました。前号で「みなさん北海道にいらしてください」と書いたからか、台風10号まで「参加したい」と進路を北海道に向け、ずいぶん気をもみました。風一過、無事開催にこぎつけました。参加者は後述の計11名。最近は二ヶ夕台を維持しており、事務局もホッとしている所です。

総会では支部長挨拶に続き、昨年度の事業報告と収支決算報告、監査報告が行われました。分会総会含め多くの会員に参加いただき、会報も予定通り発行することができました。改めて皆様に感謝申し上げます。4



札幌市 「海の声 すずきの本店」にて

月の人事異動に関しては、今回初めて名簿記載、会報でのご紹介の可否などをご連絡いただくようにしました。また、総会・新年会の返信にはクジ付葉書を使用し、当選を狙って郵送代の節約に努めています。会員諸氏には今後もご協力をお願いいたします。

続いて令和元年度の事業計画と予算について協議いたしました。分会総会については、今年度こそ道北分会の開催（ならびに分会長の決定）を実現したいと思っております。道南・道東分会も引き続き盛り上げてまいりましょう。

また会計につきましては、松茶会本部からの助成ならびに会員からの会費収入をもって支部の運営を執行しておりますが、会費収入が減りまして今後の運営が非常に難しくなっております。皆様にはぜひ年会費をお納めいただき、会の安定運営にご協力いただきたいと思います。そのため「専用振替用紙」を復活し、今後の会報に同封することといたしました。お手数をおかけいたしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。（年会費は値上げしませんのでご安心を。「カンパ」もお待ちしております。）

総会審議の後はお楽しみ会の懇親会となりました。会場の「海の声 すずきの本店」は札幌ススキノの中心におもてなしてました。懇談では参加者の「近況報告」や「令和を迎えての決意」などを楽しく語りましました。大先輩方のお元氣な姿に接して、我々現役世代も決意を新たにすることができました。

宴も酣にして会もお開きとなり、先輩諸氏や日帰り（！）の函館の二人をお送りした事務局員たちは、事務局長の同級生のお店で反省会。しつぽりと杯を傾けたのであります。皆様、今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

### 〔参加者〕

- 奥村悠二郎（文36） 山崎郁紀（文36）
- 増井義昭（文39） 不動和則（文43）
- 佐賀敦司（文49） 若松顕仁（文56）
- 吉川 肇（文59） 吉川真理絵（文60）
- 永田哲之（文65） 富永貴之（文65）
- 佐々木伸（文74）

### ◆支部報発行

- 第58号 平成30年12月12日発行
- ・平成30年度支部総会を開催しました。
- ・道南分会開催しました。
- ・平成31年新年会のお知らせ
- ・平成29年度決算書、30年度予算
- 第59号 令和元年7月22日発行
- ・支部会員の異動

## 青森県支部

◆支部総会 支部長 柴垣博孝

- ・第60回記念北海道書道展で吉川肇氏が準大賞を受賞
- ・平成31年支部新年会を開催しました
- ・令和元年度支部総会のご案内
- ・大学トピックス

今年、8月4日（土）に八戸プラザホテルにおいて、松茶会青森県支部総会を開催しました。例年10名ほどの出席者があるのですが、今年は6名の方が参加してくださいました。ちょうど八戸三社大祭のお帰りの日に当たっておりましたので、豪華絢爛たる山車行列が運行されており、町は観光客や見物の方たちで大賑わいでした。

総会では、最初に支部長から挨拶があり、大学の近況報告や決算報告などが行われた後、大庭文武先輩の乾杯の音頭で懇親会に移りました。参加者全員が文学部出身であり、うち3名が現職教員、後の3名が退職教員ということもあり、近況報告をするのも忘れて教育談議に花が咲き、終了予定時刻を30分オーバーしてもまだまだ話が尽きないほどでした。今年も、むつ市から阿部俊一君が参加してくれました。片道2時間半ほどの道のりを駆けつけてくれて有難く思っています。また一昨年に

続いて、田名部一馬君も参加してくれました。

柴垣が支部長だから出なければね、とのこと。長野君は、赴任先の青森市から来てくださいます。

た。佐々木周子さんには、今年も事務局長を務めていただいたいております。参加してくださった皆様には、感謝申し上げます。

ところで、青森県支部の会員の皆様におかれましては、特に現職会員の方々を中心に、縦と横のネットワークを広げる意味でも、是非参加していただければと思っています。

来年度は、8月8日(土)に開催する予定です。学生の方も含めて、八戸の地でお待ちしております。

〈参加者〉  
大庭文武(文42) 田名部一馬(文44)  
柴垣博孝(文44) 佐々木周子(文50)  
阿部俊一(文53) 長野賢司(文64)

◆支部報発行

- 第4号 平成31年1月7日発行
- ・新年の御挨拶 柴垣博孝
- ・第3回青森県支部の集い開催
- ・学業以外の思い出 大庭文武



八戸市・八戸プラザホテルにて

- ・40年前の就職状況
- ・松茶会総会に出席して
- ・近況報告
- ・八戸県の漢詩文その三 柴垣博孝

岩手県支部

◆支部総会 支部長 宮本義孝

令和元年度岩手県支部の総会と懇親会は、7月21日(日)午前11時から午後3時まで盛岡市志家町の「サンセール盛岡」で開催されました。出席者は9名でした。

会員名簿を元に、それぞれ会員の情報を交換し合ったのですが、その席で、前岩手書道協会会長だった佐藤伸夫(平泉)君(文37)が昨年11月6日、肺癌で亡くなったことを知りました。享年72歳でした。

佐藤君は、大学の授業では物足りず、助手のような恰好で石橋啓十郎(犀水)先生に師事し、章法、書法に精進した結果、日本書道教育学会主催「第52回書道學會展(平成15年10月)」で内閣総理大臣賞を受けられました。師弟関係に於いて、二松

學舎の最も良き時代、二松學舎で学んだ者として最もふさわしく活躍された卒業生でした。

岩手県には高齢な卒業生が多くあります。各位、健康に留意され、少しでも長く、松茶会の活動をご支援していただけたら、と思いました。総会終了後は席を換えて懇親会になりました。

当日が参院選挙の投票日でもあり、日韓関係がぎくしゃくしている折でもあり、県立博物館の騒動が進行中でもありで、実に様々な話や意見が出されましたが、これらはも少し整理をして、後日、機会をみて報告したいと思います。

尚、しばらく途切れていましたが、今春、大学に、本県出身の学生が2名入学しました。昨年、盛岡で大学説明会があったからかもしれません。

二松學舎の教育の良き所を吸収して良い社会人となれることを期待致します。

〈参加者〉

- 小山尊史(文27) 小笠原克夫(文34)
- 伊藤慶子(文38) 目黒 泰(文38)
- 川村敏明(文40) 高橋良光(文41)
- 高橋廣至(文46) 藪 敏裕(文51)
- 宮本義孝(文32)

◆支部報発行

- 第82号 平成30年12月3日発行
- ・「松葉づえの贈物」
- 第83号 平成31年3月23日発行
- ・県支部報第81号補足
- 第84号 令和元年6月16日発行
- ・私の東京文学散歩「野川を行く」
- 特別号 令和元年7月21日発行
- ・支部会員の近況報告
- 第85号 令和元年7月30日発行
- ・総会・懇親会を終えて
- ・佐藤平泉君を悼む

茨城県支部

中洲先生詩碑清掃

支部長 沼田俊明

梅雨入り直後の6月9日、茨城県支部では、大洗町に建つ、三島中洲先生の「磯浜望洋楼」詩碑周辺の除草清掃作業を実施しました。当日は、今にも降り出しそうな空の下、午前9時から支部有志4名が、各自用具を持ち寄り、詩碑周辺の樹木の枝打ちや除草、碑前の道路沿いの生け垣の刈り込みなどに汗を流し、午前11時には終了しました。

この清掃作業は、昨年支部として初めて取り組みましたが、今年は人数も若干ながら増え、段取り良く短時間のうちに済ませることができました。かつては、本支部顧問の二松學舎大学名誉教授大地武雄先生が、この清掃作業に一人で取り組んでこられました。



大洗町・三島中洲師「磯浜望洋楼」碑前にて



支部として取組む事になったきっかけは、平成29年の支部総会において、三島中洲先生の詩碑が話題になったことからです。この支部総会の2週間ほど前に、水戸市で二松學舎大学名誉教授石川忠久先生が講演会を開かれ、磯浜望洋楼詩を大正天皇の御製の詩と関連付けて話され、講演後大洗の詩碑を訪問されたことが報告されました。その報告を受けて、「二松詩文」第18号に詩碑の建碑由来について小神野三男四氏の寄稿があることや大地先生の清掃活動が紹介され、支部総会出席者の多くが、詩碑の現状についてはじめて知るところと成りました。そこで会員から、開学の祖三島中洲先生の足跡が地元にあることを永く伝えるために、詩碑の清掃活動等を支部で取り組んではどうかとの提案があり、昨年からの実施となりました。

作業をしながらの四方山話は、総会時とはまた違ったそれぞれの側面が伺え、会員間の交流を深めることができました一時でした。来年以降もさらに参加者を増やして実施したいと思っております。

〔参加者〕  
沼田俊明(文40) 小林 勉 (文41)  
青山幸雄(文49) 佐藤志津雄(文51)

## 群馬県支部

### ◆支部報発行

○第48号 平成31年3月1日発行

・支部長就任にあたって 高柳 薫  
・支部長を退任するにあたり 小石さち子  
・平成31年度総会・新年会開催  
・寄せられた近況報告  
・東京支部総会に参加して  
・第7・8回群馬松茶会書展報告  
・文学散歩 朔太郎の再発見と浦野先生の墓参  
・支部活動活性化のためのSNS活用について

## 埼玉県支部

### ◆支部総会

支部長 青木一弥  
平成31年2月10日(日) 午後1時より、東天紅大宮店を会場に、平成30年度埼玉支部総会・懇親会を開催しました。

当日は大学より磯水絵副学長、松茶会本部より廣田克己会長のご臨席をいただき、参加者総数21名で、例年どおり賑わいのある会となりました。

支部総会では、来賓あいさつとして磯副学長並びに廣田会長から、大学並びに松茶会についての印象深いお話をいただくとともに、本年度の総括と次年度に向けた活動案が無事承認されました。また、総会時において、長年にわたり埼玉支部会を牽引いただいた前支部長町田哲夫氏に松茶会本部より感謝状が贈呈されました。

二部の懇親会では、参加者全員か

ら近況報告が行われ、世代を超えた和やかな雰囲気となりました。特に本年度においては、二松學舎大学で実施された教員免許更新講習の受講をきっかけとして、初めて支部会に参加いただいた方や、ご夫婦そろっての参加も増えつつあり、つながりの輪が徐々に広がっています。



さいたま市・「東天紅大宮店」にて

今後とも参加しやすい埼玉支部として、会員相互の連携を図りつつ、母校二松學舎大学の発展に寄与できる支部運営に努めたいと考えています。

### 〔参加者〕

#### 〔来賓〕

二松學舎大学副学長 磯 水絵(文41)  
二松學舎松茶会会長 廣田 克己(文38)

#### 〔支部会員〕

小林 公雄(文38) 中居 功一(文39)  
持田 賢一(文40) 小林 隆子(文40)  
町田 哲夫(文42) 町田 芳子(文42)  
八木 直也(文42) 五十嵐 清(文44)  
柴田 京子(文45) 中山 幸男(文46)  
中山 芳美(文46) 青木 一弥(文47)  
吉野昇之助(文47) 高砂 光延(文48)  
千葉 昇(文53) 長島 優香(文54)

## 千葉県支部

### ◆支部総会

副支部長 前田康晴  
令和元年8月3日(土) 午後1時より、「千葉県文化会館」にて、令和元年度二松學舎松茶会千葉県支部総会を開催いたしました。

総会は、田邊義博副支部長の開会の辞から始まり、次に、逝去された千葉支部会員の方々を偲び黙禱をいたしました。辻将一支部長の挨拶・来賓紹介に続き、小林政明氏を議長に選出、議事に移りました。議事は、(1)平成30年度活動・決算報告。辻支部長からの説明。その後、藤本敏雄監査による監査報告があり、拍手をもって了承されました。

(2)令和元年度活動計画・予算案。辻支部長からの説明。これに対する質疑応答の後、了承されました。その後、廣田克己松茶会会長より、辻氏の長い間の労苦や貢献に対し、「感謝状」が贈られ、会場より大きな拍手がありました。(3)新支部長挨拶。(4)新役員紹介。新支部長河野千津子氏より挨拶がありました。その中で現段階としてはまだ全役員のポストが決まっていないので「支部報」に新役員名簿を掲載することをもち、発表に変えたいとの報告がありました。(5)その他。片山聖英東京支部幹事長より「水島涼太」氏

小西 明德(文60) 中山 大輔(文77)  
駒井 伸彦(文79)



の紹介。内容は、略歴・これまでの活躍（真田太平記・炎立つ・取調室・義経・水戸黄門などの作品に出演）、これから公演される「風よ 柳よ 夕焼けよ」についての説明がありました。



千葉市・「千葉県文化会館」にて

◆記念講演

記念講演として九十九里郷土研究会副会長齊藤功氏（本学科目等履修生）より、「上総九十九里浜来遊の文化人―中西月華と向上会と片貝海水浴場を中心に―」と題し、約1時間程度のお話を賜りました。その概要をここにまとめます。「1、初めに代えて」。辻支部長との出會や、中西三郎氏（中西月華の三男）、恩師佐久間峻齋氏（本学昭和8年入学）とのことなど、なごやかな雰囲気が始まりました。「2、中西月華と向上会」。九十九里の中央、山武郡片貝町（現、九十九里町）とその周辺で取り組まれた文化・文芸運動、町おこし運動の中心にいたのが中西月華（本名忠吉、明治6年〜昭和26年）であること、その運動のための有志文化団体が「向上会」であること、「向上会」によって、九十九里浜の片貝は有名な海水浴場となり多くの

文化人が来遊したことが語られた。略歴については葉荊商を営んでいたことや、原安民によって文学的素養が豊かになったことなどを説明。「3、来遊の文化人」。来遊の人々を大きく四分類して示しました。一、キリスト教関係の人々。二、国民新聞社関係の人々。三、早稲田大学関係の人々。四、作家・俳人・画家の人々。五（付記）戦後、です。「4、おわりに代えて（佐久間峻齋先生のこと）」。明治初期から昭和初期の片貝村（町）は、中西月華を中心とする「向上会」の人々やここに居住した来遊の文化人によって、この名は知れ渡ったと結論付けました。

記念撮影の後、午後4時より、「喫茶ボンヴィル」にて、懇親会を開催しました。

〔参加者〕

〔来賓〕

- 松苓会会長 廣田克己（文38）
- 東京都支部長 矢澤喜成（文50）
- 東京都支部幹事 片山聖英（文50）
- 東京都支部幹事 渡辺大雄（文65）
- 神奈川県副支部長 小林孝彰（文38）
- （講師） 九十九里郷土研究会副会長 齊藤功
- （支部会員） 辻 将一（文45） 田邊義博（文46）
- 河野千津子（文49） 前田康晴（文49）
- 藤本敏雄（文40） 竹内恵子（文34）
- 小林政明（文39） 廣川 實（文40）
- 行木康夫（文44） 小林憲二（文38）
- 龍崎正徳（文44） 小金澤豊（文50）

市原智浩（文53） 荒岡拓磨（文78）  
武藤冨季子（文79）

◆支部報発行

○第23号 平成31年3月1日発行  
「有終の美を」 辻 将一  
・愚魯の戯言 藤本敏雄  
・千葉県支部総会報告  
・松苓会千葉県支部の歩み

東京都支部

◆支部総会 支部長 矢澤喜成  
令和元年7月27日（土）  
二松學舎大学九段1号館



大学九段1号館「中洲記念講堂」にて

○総会 1号館802教室  
講演会（中洲記念講堂）、懇親会（13階ラウンジ）は、東京都・神奈川県・千葉県支部共催、埼玉県支部賛助で開催（内容は後掲）  
○講演会  
1 学生クラブ活動実演 落語研究会  
2 講演 講師 アンドロイド夏目漱石特別教授  
〔参加者〕 東京都支部 27名  
渡辺和則元学長（特別会員）  
廣田克己松苓会会長（文38）  
家永修松苓会副会長（文44）

平野光治神奈川県支部長（文40）  
辻将一千葉県支部長（文45）  
青木一弥埼玉県支部長（文47）  
高柳薫群馬県支部長（文47）  
畠山幸治（文37） 生垣しげ子（文38）  
西谷道郎（文41） 星野優子（文42）  
浅野進太（文42） 大山由美子（文47）  
神河秀春（文47） 高柳幸雄（文49）  
村井英子（文49） 大淵俊明（文50）  
片山聖英（文50） 矢澤喜成（文50）  
高橋映子（文53） 山口洋子（文54）  
坂口和香（文54） 立石英記（文58）  
中原敬二（文62） 渡辺大雄（文65）  
山田桃子（文66） 水島涼太（俳優）

◆支部報発行

○第66号 令和元年9月1日発行  
鈴木了三先生のネクタイ・ピン 矢澤喜成

- ・歴史文学散歩参加者募集
- ・幕末明治の日暮の里 片山聖英
- ・令和元年度支部総会開催
- ・関東三支部合同記念講演会実施
- ・千葉県支部総会に参加して
- ・山田方谷記念館開館 山田 敦
- ・山田方谷記念館開館に際して

◆東京都支部・千葉県支部・神奈川県支部共催及び埼玉県支部賛助による講演会、懇親会開催

神奈川県支部長 平野光治  
令和元年7月27日（土）、二松學舎大学九段1号館にて講演会、懇親会が開催されました。  
中洲記念講堂に於ける講演会1では落語研究会の学生3名に落語をこ

披露いただきました。それぞれ個性を生かした演目披露で会場が笑いの渦となりました。講演会2ではアンドロイド夏目漱石特別教授にご講演いただきました。新規プログラム『夢十夜 第三夜』の朗読講演でした。

【ご挨拶と自己紹介】では季節柄ウナギに関する正岡子規とのエピソードの紹介と学生時代の様子、経歴を語っていただきました。学生による漱石アンドロイド誕生についての説明があり、漱石アンドロイドとツィショット撮影も行われ、思い出深い講演となりました。

講演会開催にあたりご尽力いただきました。志村孝二松學舎大学総務・人事部長、越後屋かおり広報課係長、漱石アンドロイド研究会や学生の皆様に心よりお礼申し上げます。

13階ラウンジにての懇親会には多くの皆様にご参加いただき、学生の皆様の参加もあり、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。講演会前に開催されました東京都支部総会や神奈川県支部総会、講演会、懇親会への会員の総参加者は53名でした。

今回の講演会並びに懇親会開催が実現できましたのは、矢澤喜成東京都支部長、辻将一千葉県支部長、青木一弥埼玉県支部長、高柳薫群馬県支部長の御協力のおかげです。深く感謝申し上げます。今後も支部交流に努力してまいります。変わらぬお付き合いをお願い申し上げます。

〈参加者〉

東京都支部 27名 神奈川県支部 15名  
千葉県支部 9名 埼玉県支部 2名  
総計 53名

神奈川県支部

支部総会 支部長 平野光治  
令和元年7月27日(土)

○総会 大学九段1号館808教室

○講演会・懇親会は、東京支部の項を参照

支部報発行

○第38号 平成30年12月25日発行  
○第41回支部定期総会報告

- ・平成30年 賀詞交歓会報告
- ・文学歴史 探訪実施について
- ・加藤常賢 先生の卓上ベル
- ・山崎正伸 会員の近況



大学九段1号館にて

長野県支部

支部総会 幹事 石川麻貴

平成30年度長野県支部総会が、去る7月27日(土)にホテル信濃路(長野市中御所岡田町)において開催さ

れました。

大学関係者として、江藤茂博学長、持田賢一松苓会副会長をお迎えし、関保典支部長をはじめとする、県内同窓9名を含む11名の参加となりました。

総会では平成30年度活動報告、会計報告、監査報告、さらに令和元年度予算案が満場一致で承認されました。

また支部会の体制や、総会の開催方法などについても活発な意見が交わされました。支部会への参加者が増やすためにも、総会出欠返信ハガキの活用や、各地域のブロック長をたてる案など、今後取り組める策がまだまだあることを再認識させていただきました。

ご講演では、江藤茂博学長より「小説を読む方法 20世紀の文学表現と方法論」と題してお話を賜りました。芥川龍之介「羅生門」村上春樹「1973年のピンボール」魯迅「藤野先生」を題材に、

60年代70年代から80年代へかけての文学研究の在り方、時代や立場による読み方の違いを



長野市「ホテル信濃路」にて

ご説明いただきました。

中でも現代の若者の感覚で読む「羅生門」の読み方は目からうろこでした。牢の中での下人は所謂アバター感覚、違う空間では違う人格を演じる、という視点で読むというものです。

また村上春樹作品においても、複数の世界が同時進行する世界を描き、それが世界中で受け入れられていること、20世紀の文学は様々な世界が並列化され、自我同一性ではない表現になっている、とのこと。個人的には難解だった村上春樹作品の理解が広がったように感じられました。

文学の方法論、研究、作品も時代ごとに変わっていく、またその時代とともに変わっていくことも大学では学生に提供している。さらには国際化も図りながら二松學舎大学の知名度も上げていけるよう取り組んでいる、との頼もしい話も織り交ぜながら、大変興味深い講演となりました。

講演後の懇親会は、例年よりも参加者も多く、大いに盛り上がりました。各方面でご活躍の出席者の近況報告や学生時代の思い出話、やはり今後の支部会の在り方などに話及び、活発な意見交換の場ともなりました。二次会は場所を移して行い、和やかな雰囲気のもと来年の再会を約束し、無事にお開きとなりました。ご来賓並びにご参加いただきました。



た皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

〔参加者〕

〔来賓〕

江藤茂博 二松學舎大学学長  
持田賢一 二松學舎松苓会副会長

〔支部会員〕

関 保典 (文35) 上原克善 (文39)  
山上和夫 (文40) 清水 登 (文42)  
大工原明人 (文42) 柳町公一 (文49)  
江村春彦 (文57) 北野里見 (文57)  
石川麻貴 (文71)

◆支部報発行

○第30号 令和元年6月26日発行

・いまこそ 東洋学の必要性

関 保典

・1990年代以降の日本政治

高野和基

・校友ニュース

・軽井沢・追分宿を巡る

・支部総会のお知らせ

・令和元年度大学入学試験結果

近畿連絡協議会

第71回「松苓近畿」の総会開く

事務局長 齋藤 衛

昨年の創設70周年記念総会から、従前の新年互礼会を兼ねての総会日を、「近畿支部」を創設した8月15日を基因とする総会日に改めて2度目の総会開催となる。今年是全国的に異常な高温な日々に含まれ、総会日の8月10日はカンカン照りが近

畿一円を覆い、気温は38度との盛夏。

71年前、

松苓会の地方支部「近畿支部」が創設された昭和23年8月15日に専門学校1期の先輩から呼びかけが流れた。集まった同窓は11名。今、連絡協議会代表の任にある末吉先輩が26歳であったと聞く。午後2時開会。出席者は7名。地区別に三重2名(小川・加藤)大阪2名(世古・齋藤)兵庫1名(武内)奈良1名(末吉)和歌山1名(明治)京都0名、滋賀0名。意見交流の中で次の2点について審議対象として取り上げる。



大阪市「鳥よし本店」にて

近畿は自助努力として年会費を2000円としているが、それに相応する事業がなくどうしたものだろうか。この件については「松苓近畿」の組織が存在する限りは協力してもらう方向がよいのではないか。(多数賛成)

近畿連絡協議会の代表の後任について、一段の協力を惜しまないで、引き続き任に当たっていただきたい。(全員賛成) ご本人の続投の意志を頂く。

懇親会は世古監事の発声で乾杯し、和気あいあいの中、気づき発言を捉え議論に花が咲く。

午後5時、兵庫県支部長武内氏の閉会の言葉で71回の総会を閉じる。

福岡県支部

◆支部総会

令和元年

8月25日

(日) 福岡

県支部は、

午後1時、

4時半、定

例支部会を

筑紫野市二

日市中央3

丁目の福岡

二日市文学

館セミナー

室で行いました。

県私学祭、勤務校

行事など重なり、阿部誠文(文36)、

正生英彦(文48)、井科洋美(文58)、

永淵道彦(文36)の僅少の出席となりました。

老舗「花源」弁当を食しつつ支部

長からの本部総会の報告に続き、支

部現状の話合いや、個々人の和気あ

いあいの近況報告となりました。

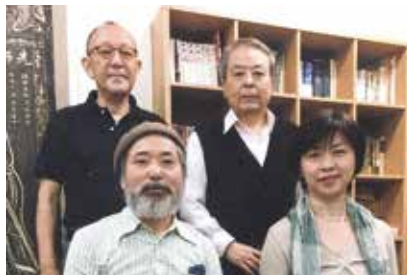
悪天候のため、新元号(令和)ゆ

かりの大宰府・坂本八幡宮参拝は取

りやめ、替わりの締め括りイベント

として新年号提案者と報じられる国

文学者・中西進先生のドキュメント



筑紫野市・福岡二日市文学館にて

◆支部報発行

○第16号 平成30年8月6日発行

・松苓会本部定期総会の報告

・二松學舎創立140周年記念式典挙

・陽明学寸考

・回想・魚づくし

・平成30年度支部定期総会(ご案内)

○第17号 令和元年8月5日発行

・二松學舎松苓会定例総会の報告

・廣田克己会長、二期目へ

・江藤茂博教授、学長に就任

・中国と私 田中八重子

・折尾神楽「夏越し祭」阿部誠文

・本年度(令和元年度)支部定例会

ご案内

大分県支部

◆支部総会

支部長 甲斐啓一郎

あいにくの雨模様で8月24日

(土)、定刻より若干遅れて午後5時

50分より大分市府内町の『郷土料理

所こつこつ庵』にて松苓会大分県支

部総会を開催した。

松苓会本部より小林公雄幹事長の

ご来臨を賜り、参加者は昨年より1

名増えて8名。

小林幹事長は挨拶の中で『基本問

題検討委員会答申(最終答申)』の

資料を配布なさり、松苓会のあり方

や今後の活動について報告。在学中

から学生会員とすることになったこ

とや、松苓会クリアファイルを全学

(8月放映のテレビ録画)を観て、散会しました。

生に配布して同窓会組織の松苓会の周知に努めてお話しになった。

また小林幹事長から大分県支部は毎年支部総会を開催して、



大分市「こつこつ庵」にて

活動が素晴らしいという過分なるお言葉を頂戴した。しかしながら、平成22年の卒業生以降、残念ながら大分県から入学する者がいないということ。卒業生の現任教員もいるものの支部総会には殆ど欠席であるということ。出席人数はいつこうに増えず、出席するメンバーは顔ぶれが固定化し高齢化の一途をたどっているということ。以上のことから支部の存続に危機感を抱いているというのが現状である。

出席者の近況報告では98歳の平野氏の健康の秘訣は毎日7000歩の散歩という話や、それとは逆に体のあちこちが支障を来たしているという話や、ハーモニカ演奏に合わせるための『知床旅情』合唱、大学在学中の日課表は教員養成課程のためか、ぎつちり講義が入っていた思い出などなど、話は尽きず、2時間を超えて時間が足りない思いであった。

最後は全員で校歌を斉唱し、畔津氏の音頭で万歳三唱。来年8月22日開催の支部総会での再会を約束して無事お開きとなった。

〈参加者〉

- 小林公雄幹事長(文38) 平野芳彦(専14)
- 畔津真智子(文34) 是本信義(特別会員)
- 富藤馨信(文43) 中井智賀子(文44)
- 中井則夫(文47) 甲斐啓一郎(文52)

同期会・OBOG会

松尾勝郎先生の米寿を祝って

齋藤浩司(文53)

令和元年8月31日(土)、九段下ホテルグランドパレス萬寿苑にて、松尾勝郎ゼミ(近世文学)第33回卒同期会を開催いたしました。この会は卒業後毎年、8月最終土曜に神楽坂付近で行われています。今回で34回を数えます。

参加は松尾先生、ゼミ生、ゼミ生の子女総勢13名で、和やかに過ごしました。

東京、神奈川、千葉、茨城、長野から参集しました。

今回のメインは松尾勝郎先生の米寿のお祝いです。会のスタートは、恒例であるゼミ長の神崎君挨拶。乾杯。その後、それぞれの近況報告をいたしました。

米寿のお祝いセレモニーでは、在学当時の写真集(フォトアルバム)、寄せ書きをした色紙をお贈りしまし

た。

当時の写真を見ながら、学生時代の懐かしいエピソード(事件?)の披露、それぞれの家族の近況を報告するなど、話は尽きませんでした。



ホテルグランドパレス「萬寿苑」にて

松尾先生の威勢のよいはつらつとしたスピーチを聞きながら、先生のご長寿をお祈りしました。

さて、二次会は、懐かしい飯田橋界隈をそぞろ歩き、神楽坂へ。35年前から通った居酒屋の跡にある店で引き続き行いました。

楽しい時間あつという間に過ぎるもの。来年の再会を約束してお開きとなりました。

なお、会当日は出光美術館で開催されております「奥の細道30年芭蕉」展の初日ということで、ゼミ生一同で見学研修を行いました。

今後も、先生を囲んで研修と懇親を重ね元気に過ごしてまいりたいと思います。

同期会、ゼミ・クラブのOBOG会を開催しませんか。

松苓会では、同期会、OBOG会の開催助成をしています。同期会、クラス・ゼミ・クラブ等のOBOG会を開催する場合は、松苓会本部に連絡してください。助成申請書を送りいたします。助成額は1万円。助成対象は、原則として10人以上参加。開催のための相談にも応じています。

近年開催した事例

- ・創部50周年式典(中国語文研究会)
- ・レーシングスキークールVOG E.L創設20周年記念祝賀会
- ・秀葉会(38回卒同期会)懇親会
- ・貴志ゼミ3期生同窓会
- ・回を重ねて42回目(文27回卒)
- ・昭和56年度入学D組同窓会
- ・青山忠一先生ゼミ卒業生の会
- ・36回生同期会
- ・軽音楽部同窓会
- ・空手部跆拳道OBOG会
- ・ワンダーフォーゲル部同窓会
- ・山崎正伸ゼミ同窓会
- ・緑友会(旧松吟会)の集い
- ・55期生書道部同期会
- ・雨海博洋先生を囲む会
- ・狂言研究会同窓会
- ・51年目の同期会(文35回卒同期会)
- ・田中伸先生ゼミ総会
- ・松岡ゼミ(経営学)OBOG会など



# 大学だより

## 本学卒業高等学校長との懇談会を開催

5月22日(水)に、大宮ソニックシティ内のレストラン「瑞麟」にて、現職の高等学校長である卒業生の方々と大学教職員との懇談会が開催された。法人からは五十嵐清常理事(文44)、大学からは福島一浩副学長(文学部教授)、教職課程センターからは田村幸子センター長(教授)、若井田正文教授、岡田哲也教授、安田一夫教授が参加、総勢17名での開会となった。

懇談会は五十嵐常任理事の乾杯で和やかに始まった。最近の教育現場での取り組みや、卒業生ならではの学生時代の思い出話などもあり、大変有意義な意見交換の場となった。

### 各県の教員の会総会開催

今年度開催された教員の会総会・講演会等については左記のとおり。

#### ○神奈川県教員の会

開催日 8月17日(土)  
場所 二松学舎大学九段1号館

#### 議事

- ①平成30年度事業報告及び決算報告
  - ②会則改正
  - ③令和元年度会長選任・役員選任
  - ④令和元年度事業計画及び予算案
- 講演会

「ことばの実態と規範―国語科教育

の担うもの―」

講師 島田泰子教授

総会では新会長に布川勝也氏(文51)が選任され、井坂秀一前会長(文50)から運営を引き継ぐこととなった。

総会後には懇親会が開催された。松苓会からは来賓として平野光治神奈川県支部長(文40)にご出席いただいた。また、出席した学生の中には今年度実施の神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験の第一次試験に合格した者もあり、積極的に諸先輩からのアドバイスを受け、教員になるという目標がより明確になったようだった。



神奈川県教員の会懇親会

#### ○埼玉県教員の会・千葉県教員の会

開催日 8月20日(火)  
場所 二松学舎大学九段1号館

#### 議事(埼玉県教員の会)

- ①令和元年度役員を選出
- ②今後の活動について

議事(千葉県教員の会)

- ①会長並びに役員を選任について
- ②来年度事業計画について

#### 講演会

「現代につながる万葉集の魅力の数々―ことば(裏側に広がる世界観)・五七調(リズム)・歌と舞(ポールカルとダンス)・元号令和(グローバルとジャパニーズオリジナル)」  
講師 塩沢一平教授

今年度は埼玉県教員の会・千葉県教員の会を同日開催し、それぞれで総会を開催した後、講演会と懇親会は合同で開催することとなった。

埼玉県教員の会の総会では新会長に小川伸一氏(文51)が選任され堂本隆春前会長(文49)から運営を引き継ぐこととなった。

総会及び懇親会には松苓会から来賓として青木一弥埼玉県支部長(文47)と河野千津子千葉県支部長(文49)にご出席いただいた。埼玉県教員の会・千葉県教員の会合同で開催したことで両県の卒業生現職教員の懇親も深まり、貴重な機会となった。

#### ○茨城県教員の会

開催日 8月22日(木)  
場所 ホテルレイクビュー水戸

#### 議事

- ①教員の会活動経過報告
  - ②平成30年度会計報告並びに令和元年度活動計画
  - ③役員補充について
- 国語(古典)講習会

「現代につながる万葉集の魅力の

数々―ことば(裏側に広がる世界観)・五七調(リズム)・歌と舞(ポールカルとダンス)・元号令和(グローバルとジャパニーズオリジナル)」  
講師 塩沢一平教授

毎年、茨城県教育委員会と水戸市教育委員会の後援を得て開催している国語(古典)講習会にあわせて総会を開催している。

講演会では、本学卒業生だけでなく茨城県内の中学校・高等学校の国語科の教員を中心に、一般の方々も多数来場し80名を超え、盛会となった。

総会後に開催した情報交換会では卒業生現職教員からの各自の活動について等の近況報告や、数日後に茨城県公立学校教員選考試験の第二次試験を控えた学生等への激励の言葉もあり、大いに盛り上がった。



国語(古典)講習会 水戸市にて

(教職課程センター)

### 針原孝之名譽教授 「瑞宝中綬章」受章



令和元年春の叙勲において、針原孝之名譽教授が教育功勞者として瑞宝中綬章を受章しました。

針原名譽教授は、昭和38年3月國學院大學文學部卒、同41年3月東洋大學大學院文學研究科國文學專攻修士課程修了、同44年3月同大學院博士課程単位取得満期退學。博士(文學)。

本学には昭和48年4月文學部専任講師として着任。昭和51年4月助教、同59年4月教授。国文学科主任、文学部長、図書館長、副学長等を歴任。また、学校法人の理事、評議員を務められた。平成23年3月定年により退職され、同年4月名誉教授の称号が授与されました。

本学では、国文学演習、上代文学研究などの授業科目を担当されました。『大伴家持研究序説』(桜楓社)『越路の家持』(新典社)など上代文学、万葉集関係の著書・論文多数。

### 今、柏キャンパスでは

本学は、平成25年度から大学教育の九段キャンパス集約化を実施した。現在の柏キャンパスの教育活動の状況を紹介する。

正課教育の開講  
文学部、国際政治経済学部の体育実技、総合科目や各学科の一部の専攻科目等、約30科目の正課科目を開講している。また、グラウンドや体育館、武道館を利用する体育系課外活動団体を中心に、放課後や長期休業期間などに活発な課外活動を行っている。グラウンド等の運動施設・設備の再整備も進められている。

留学生教育  
中国浙江省に所在する日本語学科等を有する5大学と協定を締結し、大学の正課科目のうち日本語科目や一部の専攻科目を開放、日本語や日本文化の学習に特化した1年間のプログラム「日本語・日本学特別プログラム」を平成29年度から開設した。毎年度40名前後を中国の大学から交換留学生として受け入れてい



柏キャンパス図書館前の留学生

る。開設3年目となる現在では、浙江省及び河南省の合計8大学(浙江工商大学、嘉興学院、浙江越秀外国语学院、浙江外国语学院、浙江财经大学、浙江农林大学、浙江理工大学)まで協定を拡大し、中国からの意欲ある留学生のニーズにこたえている。

同プログラムでは、留学生の日本語能力のレベルに応じ、「初級」「中級」「上級」のクラスに分け、初級・中級クラスでは主に日本語と日本文化に関する授業を受講、上級クラスでは日本人の学部学生に交じって専攻科目等を履修できる。また、授業科目を受講するほか、近隣の名所旧跡や博物館等の見学など、日本文化の実地体験等も含めて総合的な日本文化の理解も図られる。

#### 地域連携事業と公開講座

平成28年に柏事務部に地域連携室を設置した。柏市との包括協定に基づいて柏キャンパス施設の開放、図書館での所蔵資料の公開や企画展、講演会を開催している。近隣小中学生を対象とした勉強会(文学・論語・経済等)や柏市内小学校に書道等の学生ボランティア派遣、柏市教育委員会との共催による各種講演会(文学・歴史等)及び教員対象研修会などを実施して、地域に根ざした大学としての活動に力を入れている。

公開講座(生涯学習講座)は、年々その規模を拡大、平成28年度からは春・秋セメスター制を導入して講座

数を増やし、現在約60講座を開講している。受講者数も以前に比べ大幅に増加し、当初は約400名だった受講生も平成30年度には約1700名を数えるようになった。講座のラインナップとしては、国文学、中国文学、書道、語学、芸能演劇、教養、国際関係、フィットネスなど幅広い分野のものを開講。受講生にはリピーターも多く、地域住民にとっての「生涯学習の場」として近年定着してきている。

この他、平成30年度には産学連携室を設置し、本学学生のインターンシップ派遣等、民間企業との連携事業を推進している。

以上のように、現在の柏キャンパスは、学部の正課教育のほか、課外活動や外国人留学生の受け入れなどの拠点として活用されている。また、地元行政との連携事業や公開講座など生涯学習の場として地域社会に貢献している。

大学教育を巡る状況や社会情勢等を勘案しながら、柏キャンパスでの更なる教育活動の展開が期待されている。



教室で受講する留学生



## 教員免許状更新講習

教員免許状更新講習が、8月5日（月）から9日（金）までの5日間、大学で実施された。教員は10年毎に文部科学省の認可を受けた機関で免許状更新の講習を受講することが義務づけられている。本学も毎年講習を実施しており、本年度は募集定員100人のうち、本学卒業生60人が母校で受講した。講習最終日の9日に松茶会主催の交流会を開催した。

### 免許状更新講習を終えて

若松頭仁（文56）



令和元年8月、北海道人には堪らない酷暑の中、母校での更新講習を受講しました。年齢の関係で、初の受講となります。

私は卒業後勤めた北海道の高校教員を数年前に早期退職、現在は家業（書籍文具小売）の傍ら書道教室運営、小学校や幼稚園、高齢者大学の書道講師や筆耕など多忙な日々を過ごしています（他にも商工会役員、社会福祉や社会教育の役員、自治会等々公職多々あり過ぎるのですが）。退職はしたものの、今後を考えると、やはり教員免許は必要、そして受講するなら母校二松學舎でとの思いが強し、東京での受講を決意したのであります。

朝から照りつける太陽の下、セミ

たちの大声援を受けながら、こんなにキツかったか九段坂！と汗だくになって校舎に向かいます。教室には懐かしい同期生の顔もちらほら。卒業後30数年経っても分かるものです。

現役を退いた者にとつて、前半3日間の講義はなかなか厳しいものがありました。しかし地元高校のコミユニティスクール委員も務める私にとつて、現場での日々を思い起こしながら改めて新課程や生徒指導について確認できたことは大きな収穫でした。修了試験、こんなに勉強したのは何年ぶりでしょう。

後半は専門科目。私の受講した現代文も書道も、さすが二松學舎です。知的好奇心とか知識欲求とか、刺激されて楽しくて感動的でした。もう十分理解していたつもりです。「蘭亭」さえ目からウロコの連続でした。

最終日、全ての講義・試験が終了すると、松茶会主催の交流会です。この5日間を戦い抜いた同士、皆ホッとした顔で語り、酌み交わします。「二松焼酎」が沁みました。役員諸氏の心遣いに感謝申し上げます。願わくは講師の先生方や、現役学生も会員とのことです。学生さんの皆さんも参加頂いたら、もっと盛り上がるのではと思いました。

翌日、一週間ぶりの北海道、地元の気温は15、9度。現実に戻されました。

### 免許状更新講習を受講して

根岸一真（文78）



二松學舎大学九段校舎へ足を踏み入れたのは、卒業以来実に10年ぶりのことであった。教員として働く10年という月日はあつという間に過ぎ去ってしまったように思われるが、正面の階段に足を運んだ途端、一瞬にして学生時代の思い出がよみがえる。友人と語り合った中庭のベンチ、学生食堂。どこまでも広がる学問の世界と向き合った図書館、講義室。それぞれの場所、風景に若き日の自分の姿を見出し、万感の思いがこみ上げて来る。

母校を免許更新講習の場として選んだのは、何よりも母校とのつながりを持っていったからである。これまでも卒業生の懇親会などにお誘いいただくこともあったものの、なかなかそのような会に参加することができずにいた。しかし心のどこかで、同じ学び舎で過ごした先輩方や同期とのつながりを持ちたいという思いを持っていった。そして、この免許更新講習という機会を得て、ようやくその思いを実現させることができた。

選択必修のみの参加であったのだが、講習を担当くださったどの先生にも、非常に刺激のかつ熱心にご指

導いただき、若輩者の私としてはどの講習からも多くのことを学ぶことができた。教員とは学び続ける存在でなければならぬという思いを、再び胸に抱ききつかけをいただいたように思う。特に山口直孝先生、田中正樹先生のお姿からは、学生時代の授業風景が思い起こされ、まるで自分が学生時代に戻ったような錯覚を覚えた。3日間大変お世話になりました。

更新講習後の卒業生懇親会では大先輩、同期の先生方と楽しく実りある時間を過ごすことができた。同窓というだけで会話の敷居が下がり、交流を深められる。同窓とは、本当によいものであると実感した。ぜひ今後時間許す限り松茶会の活動に参加し、多くの先生方とのつながりを持たせていただけたら幸いです。（東京家政大学附属女子高等学校）



大学九段1号館13階ラウンジでの交流会

改元「令和」によせて

「令和改元」の原点「黒衣」の官僚  
尼子昭彦氏（国立公文書研究官）

家永 修（文44）

昨年12月、ある新聞社から予期せぬ取材を受けた。学友であった尼子昭彦氏についてであった。取材の内容は詳述できないが、彼は30年以上に亘り、国立公文書館に勤務しながら「元号研究官」として「平成」改元にもかかわらず、5月に亡くなったことであつた。

4月2日から4日の新聞の記事は改元の舞台裏を「尼子昭彦氏」を中心に据え丁寧に書かれていた。

「令和改元」の余韻冷めやらぬ6月中旬、一冊の本が新聞社から届いた。「令和」改元について（4月2日〜4日）、新聞に掲載された記事をまとめたものであつた。担当編集者の記者魂が伝わってきた。私も熱いものが込み上げてきた。

「元号研究官」尼子昭彦氏は1976年〜81年まで本学大学院（中国学専攻）の修士、博士課程で当時の錚々たる教授陣に中国文学・中国哲学を学んだ。私は修士課程の僅か2年間ではあつたが共に学び、大いに啓発された。

シャイで皮肉屋の研究者。30年間学者と官僚の架け橋となり表舞台に出ることはめつたになかつた。「学

者」尼子昭彦氏は松茶会と二松學舎の誇りである。

〔編集部注〕

文中「ある新聞社」とは毎日新聞社。毎日新聞出版『令和改元の舞台裏』（6月15日発行）に尼子氏の活躍が詳述されている。

尼子昭彦氏略歴

昭和51年3月 専修大学卒業

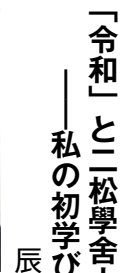
同 53年3月 二松學舎大学院文学研究科中国学専攻修士課程修了

同 56年3月 二松學舎大学院博士課程単位取得満期退学

昭和62年 国立公文書館に奉職。公文書研究官。元号担当として30年に及ぶ元号選定準備業務に従事。

平成30年5月 逝去。享年66

「令和」と二松學舎大学  
——私の初学び



辰巳正明（文36）

50数年以上も昔、私は二松學舎大学の国文学科に入学を許された。13階段を上ると、目の前にずいぶん古風な木造校舎が偉容を誇っていた。この校舎での学びが、私の研究の道を作り上げてくれた。

同学の仲間に元理事長の大山徳高氏、宮城学院女子大学名誉教授の犬飼公之氏、相模女子大学名誉教授の

呉哲男氏など個性的な人たちが多くいた。教授陣は時代ごとに著名な研究者のそろい踏みであつた。私は教育学者の齊藤正二先生に師事し、民俗学や人類学的な授業内容に興味を持った。それが私の研究の基本となつた。国文科としての専門を学ぶために、萩谷朴先生のゼミに入った。

しかし、古代的な人間の思考や習俗に興味があり、非常勤であつた鴻巣隼雄先生のもとで『万葉集』を学んだ。『万葉集』には古代的思考が満ちていて、急いで論文らしき物を書き上げて読んで頂けるようにお願いした。今にして思えば、厚かましいことであつたが、鴻巣先生から稚拙な論文を褒めていただいたことが、私の研究の道を開く契機となつた。

そのこともあつて、畏れを知らずに大学院を目指す気持ちが高まり、修士へと進んだ。この年に、非常勤で中西進先生が着任された。鴻巣先生が推薦されたと聞いた。それは偶然の出会いであつた。若き中西先生の万葉研究は、驚きの連続だつた。

内容は山上憶良研究であつた。前夜から朝までに授業の内容を作り上げて来られるのだと聞いた。毎回の授業内容は、暫くするとそれらが学会誌に掲載されていた。修士の2年間憶良研究であつた。名著の『山上憶良』が刊行されたのは、それから暫くしてのことであつた。

研究の面白さを知らされた私は、決まっていた高校の専任を断り、中

西先生のおられた成城大学の大学院へ進んだ。それ以来、50数年を経たが、中西先生は現在もお元気で、今でも我が師である。お会いすれば、これからの研究のことなどをお話しし、50年前と少しも変わりがない。

この5月に「令和」の時代が始まつた。「令和」の考案者として中西先生の名が明かされ、それによりお忙しい日々が続いている。「令和」が『万葉集』由来であることが話題となり、『万葉集』の時代が到来したように思われる。「令和」の意は、「麗しく和やか」である。730年に大宰府で梅花の宴が開かれ、大伴旅人が書いた序文の「初春令月、気淑風和」（『万葉集』巻五）に基づく。そこには旅人の風流を見ることができ（辰巳『令和』から読む万葉集』新典社新書参照）。

「令和」から私の初学びを思い出し、二松學舎で学んだことが懐かしく思われた。これからも、二松學舎は変わらずに二松學舎であることを願う。

〔編集部注〕

辰巳正明氏は、本学文学部国文学科を昭和43年3月卒。昭和45年3月本学大学院修士課程修了。昭和48年3月成城大学大学院博士課程単位取得満期退学。國學院大学名誉教授。博士（文学）。令和発表の翌日の『朝日新聞』（4月2日朝刊）「平成から令和へ 新元号のメッセージ」（座談会）に参加し、令和について語っている。



### 卒業生だより

松茶会室に寄せられた卒業生の活躍を紹介

◇茨城県立古河中等教育学校教諭の石塚照美さん(文57)、『茨城新聞』(7月12日付)に、同校文芸部発行の学校新聞「古河中等瓦版」作成に顧問として創部以来6年間指導。県高校新聞コンクールで2016年に最優秀賞、以降毎年入賞、全国高校総合文化祭への出場は、今夏で連続4回になると紹介。

◇一般社団法人中斎塾フォーラム塾長の深澤賢治氏(文37)は、1月14日、湯島聖堂文化講演会で「佐藤一斉の人間性」の演題で講演。同氏は1月に『陽明学のすすめⅦ 人間学講話 佐藤一斉』を刊行。

◇福岡二日市文学館館長の永淵道彦氏(文36 福岡県支部長)は、豊島与志雄童話選集を刊行中。

◇太宰治賞作家の志賀泉氏(文51)が4月12日松茶会室に来訪された。前著『無情の神が舞い降りる』の

フランス語訳「Quand le ciel pleut d'indifférence」が2019年3月に出版されたとのこと。

◇2月1日〜6日まで開催された群馬県支部主催「第8回群馬松茶会展」の記事が『上毛新聞』2月2日付朝刊に掲載されました。

◇8月3日、大学で漢学者記念館会議シンポジウム「洪沢栄一の教育支援 人づくり」が開催され、本学町泉寿郎教授(文60)が「三島中洲と洪沢栄一の共鳴のかたち」と題し、山田方谷記念館館長の山田敦氏(文48)が「山田方谷と高梁市山田方谷記念館について」と題して講演された。

◇5月26日、町泉寿郎教授の、岡山県倉敷市での講演「三島中洲の人となりと業績」が、『山陽新聞』(6月14日付)に掲載された。(上掲)

### 津野高雄氏(文37)『古本屋一代』出版



昭和44年3月文学部中国文学科卒業の津野高雄氏(文37)が編著書『古本屋一代 ショートエッセイ/古本屋と山と』を出版した。

本書は全5章からなり、第1章 古本屋以前 第2章 古本屋一代 第3章 我が愛する山々 第4章 故・岳友栗原俊雄君の御霊に捧ぐ 第5章 自選凡句「49選」。

「本書は、学生時代の4年間、サラリーマン時代の10年余、脱サラした古本屋稼業の25年間を通して、心に残った『絵』になる人達の、いわば人物スケッチである。(中略)脱サラ後の営みは凄絶であったが、全力投球した古本屋稼業の25年の日々は楽しく、あつという間の歲月であった。」と著者は記す。

巻末の著者紹介、1943(昭18)年、東京都生まれ。二松學舎大学・中国文学科卒業。読売新聞社専属広告代理店、日本科学技術翻訳協会編集室を経て、製菓大手S社宣伝部門で10年間編集業務に従

## 発言台

漢学者・三島中洲(1830~1919年)の本名は「毅」で、読みは「つよし」か「き」かはっきりしない。号である「中洲」は出身地の中島村(現倉敷市中島地区)に由来する。三島家は、戦国時代に毛利氏に滅ぼされた備前中松山城主・三村氏の一族を家祖とする。

二松学舎大文学部教授 町 泉寿郎さん

### 「三島中洲の人となりと業績」



修 医 二 松 学 舎 大 学 講 義 員 泉 寿 郎 氏  
「三島中洲」の著者である町泉寿郎氏(50歳)が、講演中、中洲の業績について話している。

### 見直される「義利合一」

では、藩主の名譽を守りつつ、武力衝突の回避に尽力した。中洲は、新1万円札で肖像面「政治は全て民衆のため」とに起用される実業家の洪沢栄一の信念があった。とも交流があった。第八十六回島学区郷土を学ぶ会主催の明治以降は東京裁判所の判立銀行(現中国銀行)の設立に要旨。

5月26日に中島小(倉敷市中島)で開かれた講演会(中島学区郷土を学ぶ会主催)の要旨。

中洲が説く「義利合一論」と洪沢の「道徳経済合一説」は、個人の利益を超えて公益を優先するといった価値観を共有している。富の不均衡が社会不安をつくり出している昨今、人と人のつながりやその前提としての「誠実・信用」が問い直されている。中洲や洪沢の考えがいま一度、見直される可能性がないとはいえない。

際し、経済に詳しい洪沢から情報を収集した。洪沢の古希を祝うため撰文集したり、二松学舎の後事を託したりもした。

中洲が説く「義利合一論」と洪沢の「道徳経済合一説」は、個人の利益を超えて公益を優先するといった価値観を共有している。富の不均衡が社会不安をつくり出している昨今、人と人のつながりやその前提としての「誠実・信用」が問い直されている。中洲や洪沢の考えがいま一度、見直される可能性がないとはいえない。

事。35歳で脱サラし、古書店「千文堂書店」を開業。以後、25年間、ウツに倒れるまで5店舗を展開。2001年、「奥秩父十文字小屋・友の会」会報「しやくなげ通信」を発行し、初代編集長となる。冊子「WARERA」[「ひこばえ」「断食小記」]を制作。エッセイスト。

佐々木義登氏(文59)  
『郷里』を出版



2007(平成19)年「青空クライシス」で第14回三田文学新人賞受賞の佐々木義登氏が、三田文学賞受賞作を含む6篇の短編を収めた作品集『故郷』を昨年3月、亜紀書房から刊行した。

収録作品は次のとおり。

- 鈴の音
- 桃
- ナイフ
- 空に住む木馬
- 青空クライシス
- 王と詩

佐々木義登氏は、1966(昭41)

年徳島県生まれ。平成3年3月文学部国文学科卒(文59回卒)。学部卒業後、出版社勤務を経て、本学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。  
現在、四国大学教授。

会員からの便り

近況報告

坂井由美子(文42)



二松學舎大 学と書かれた封筒を眺めながら、今まで歩んできた道を振り返って見た。大学を卒業して何年経ったのか。

なんと46年も経っている。その間、教職に携わりながら、茶の湯、書、生け花と趣味にのめり込んでいった。今では後進を育てながら自らの発表の場として、茶会を催したり、書作展に出品したり、華道展へ出品したりと、忙しい毎日を送っている。雪国の生活には全く縁のなかった私だったが、結婚して4年目に夫の実家がある新潟に引っ越し、いつの間にか地域にもとけ込んで子育て、仕事、趣味に行動範囲を広げることができた。夫をはじめ家族の協力があったからこそ感謝、感謝である。

一度始めると、途中でやめたくない性格の私だが、さすがに生活が忙

しく、趣味はひとつに絞った方がよいかと思うことも多かったが、それぞれの良さや共通する美意識に気づいたりすると、もったいなくてやめられなくなってしまうのである。粗密(疎密)、大小、濃淡、間の重要性などを意識しながら準備をしていく楽しい時間！最近生みの苦しさが勝ってしまうことが多いが、生き甲斐になっていることは間違いないようである。

一方、いつまでも気分は若いつもりでいたが、膝の関節炎にはまいつてしまう。最近体と相談しながらの仕事である。

大学時代、書は金子清超先生のゼミであった。先生の孫ほどの年令であった私たちに、「人間、何でも10年続けられたら何でも形になる。しかし、その10年がなかなか辛抱できない。」と言われた言葉がとても印象に残っている。その教えだけは守りたいと続けていた書も、漢字から今は「かな」へと形は変わったが、作品作りに向かっている。先日、日展の作品を提出したところである。今年是如何に。

そういえば、もうひとつ46年続いていること、それはクラブOBの会(落研)。といっても行事への出席はほとんど都合で出席できないのだが、いつの間にか名簿の一番はじめに私の名前が。

『寒オリオン』まで

福島たけし(猛)(文44)



7月、第四句集『寒オリオン』を出した。6年余の42句、『永久百首』の古歌「我ひとり鎌倉山を越え行けば星月夜こそうれしかりけれ」を借りて、一集の序とした。

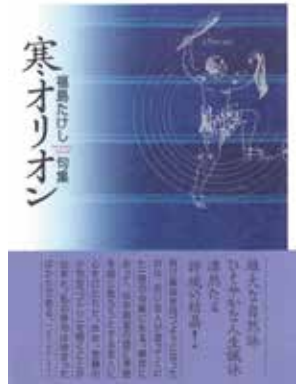
第三句集からしばらく時間が空いた。勤務中に突然倒れてから、私は俳句から遠ざかっていたが、再び私に機会を与えてくれたのは、古い俳句仲間たちである。昨春秋、小俳句会「コトリ」を開いたが、それと前後して句集の話が持ち上がった。句集の句はそのまま、私のこの数年の心の記録でもある。

私が二松學舎に進んだのは、俳句を詠みたかったからである。中村俊定という先生に古俳諧を習いたい、漠然とそう思って、二松學舎を選んだ。

第一句集『樹影』は、就職して一家を持つまでの記録である。私は俳句を森澄雄と小林康治に学び、「林」同人として康治先生に師事した。勤めが鎌倉にあったので、仕事が終わると古都としての鎌倉に出て歩いた。

第二句集『江南』は、南京大学で過ごした2年半と、その前後の句をまとめた。着任して半年、中国は改





革開放へ舵を取り、大きく動き始めた。任期中、巨星加藤楸邨が他界、康治先生も亡くなられ、「林」は解散した。帰国後、着任した学校で小さな句会を開いてくれた。この人たちが「コトリ」を再開してくれた。

第三句集『街道』は、その小句会での句を載せた。平成の俳句は私の学んできた人間探求派とは異なり、短歌の流れにやや遅れて、軽快な句が主流となった。仕事が常に多忙となり、俳句に力を注ぐことが難しくなった。教育界全体が転換期を迎えていた。

季節の移ろいの中で、この世にある人としての心を詠う、それが、芭蕉から現代までの俳句の変わらないテーマであり、伝統である、私は信じて疑わない。私はそれを伝えて行くことが役目だと思っている。

〔編集部注〕

『寒オリオン』収録句「人声をただ音と聞き秋の旅」について、8月20日読売新聞朝刊2面「四季」欄に長谷川権氏の鑑賞が掲載されました。

直恵デザインスタジオ

赤坂直恵(文73)



デザイン書道家をしており、現在は独立してお仕事をさせていただいております。昨年『日本のデザイン書道家』という書籍に掲載していただき、少し気恥ずかしかったこの肩書もやっと自信を持つて名乗れるようになりました。

卒業後、営業職としてアパレル問屋に就職し、育休後は社内デザイナーとしていくつかの中小企業に勤務、現在は独立してお仕事をさせていただいております。昨年『日本のデザイン書道家』という書籍に掲載していただき、少し気恥ずかしかったこの肩書もやっと自信を持つて名乗れるようになりました。

デザイン書道とはビジネスで使用されることを前提とするもので、CG加工を行うこともあります。お仕事はお店のロゴ制作、商品やちらしの題字制作等。最近では和綴じの卓越した技術をもつ老舗製本会社、耐水紙のメーカーさんたちが行った「現代の大福帳を作る」というクラウドファンディングで、表紙の「大福帳」という文字を書かせていただきました。おかげさまで目標金額に達し、江戸東京博物館でも発売される予定です。

さて「大福帳」については、不思議なご縁を感じております。と申しますのも、私は近世文学を学ぶ白井雅彦ゼミ第1期生でした。大福帳は江戸時代に使われた「帳簿」にあたるもの。ゼミでは近世文学に書かれ

た場所をめぐる文学散歩、歌舞伎鑑賞、瓦版、白井先生レクチャーのもと制作した無線綴じの冊子等さまざまな思い出があります。二松で学んだ江戸、製本、そして書道、私の興味関心がここでつながった気がしました。

また、実は私の初のデザイン書道は在学中に書いた、狂言研究会発行の小冊子の題字「小猿」。きっかけはここだったのかもしれない。この仕事の喜びは日常生活の中で利用される一般的な商品にも、デザイン書道によって消費者に高揚感、安心感を与え、その価値を上げる手助けができる可能性があることです。

来年は東京オリンピック開催。日本が目される機会があります。二松で学ぶ後輩たちが、新しい形で日本の文化を発信していることを期待しながら、私も負けなようにさらに頑張りたいと思っています。次第です。



松茶会報原稿募集

会員相互の交流、情報交換の場を積極的に提供するため、会員から原稿を募集しています。

内容は、会員の近況報告(例えば、こんな活動をしている、仕事をしている、書道などの「個展を開催する」「開催した」「受賞した」、母校や恩師の思い出、漢詩・短歌・俳句などの文芸作品。同期会、ゼミ会、クラス会、クラブOBORG会を開催する、開催したなど。

字数は800字程度まで。短文字(50字位)でもかまいません。締切 特に定めません。会報は年2回(9月、3月)発行しておりますので、適宜掲載いたします。

住所変更等があったら届出を

住所変更や改姓等があった場合は、早めにメール、ハガキ、電話等で松茶会本部にお届けください。松茶会や大学からの案内(ホームカミングデーの案内や松茶会報の送付等)郵便物を確実にお届けしたいと思いません。

## 松苓会の認知度調査（アンケート）集計結果

二松學舎松苓会は、平成27年総会で基本問題検討委員会を設置した。委員会は、2度にわたる中間答申を経て、平成31年3月2日に最終答申書をまとめ会長に答申した。答申書には委員会が実施したアンケート集計結果が報告されている。以下に「概要」を掲出する。

### 【目的】

基本問題検討委員会では、教職員・支部長・会員・学生向けの4種類のアンケートを実施した。アンケート実施の主たる目的は、松苓会活動に対する認知度の実態把握にある。そのため、アンケート項目に松苓会の存在そのもの、活動内容の認知度を測るための項目を置いた。

### 【概要・結果】

#### ○教職員向けアンケート

対象 専任の教職員 153人 回答者 19人 回収率 12.4%

回答方法 学内メール（ガルーン）を利用し回答。

#### ○支部長向けアンケート

対象 47都道府県支部長 回答 27支部 回収率 57.4%

回答方法 予め総会資料とともに送付し、総会当日提出。総会欠席者は郵送回答。

#### ○一般会員向けアンケート

対象 一般会員 回答 75人

回答方法 支部総会等で配布・回収。ホームカミングデー参加者に配布・回収。

#### ○学生向けアンケート

対象 全学生 回答 103人

回答方法 大学教員の協力を得て、学生に個別配布の松苓会報にアンケート用紙を組み込み、回答願う。提出は松苓会室。

記述回答部分については、「要望」「提言」「その他（感想等）」に分けて、その内容を確認したが、詳細な分析と対策は今後の課題である。今後の本部活動を行うにあたり、活用されたい。

・学内教職員には松苓会報発行の都度、配布している。大学教員には、学生への会報配布で協力を願っている。回答率が12.4%の示すように、松苓会（同窓会）に対する関心の度合いが低いことが判る。回答者からは積極的な提言等をいただいている。

・支部長に対する調査では、名簿作成、会員の住所等の情報提供の要望が強い。

・一般会員にも松苓会活動の内容が知れわたっていない。広報の必要性。「学生会員」に対する期待、関心の声が多い。

・学生の調査では、ほとんどの学生に松苓会の存在が知られていない。または関心がない。

回答者は全学生の約3.5%。アンケート項目別では、次のとおりである。

(1) 回答者103人のうち、松苓会の認知度・・・50.5%

(2) 同 松苓会室の存在の認知度・・・26.2%

(3) 松苓会活動で知っている項目は、松苓会報、100円朝食の順

(4) 「学生支援」で知っている項目・・・100円朝食 56.3%

(5) 100円朝食に対する要望が多い

(6) 大学に対する要望が多く記載されている。

(7) 自由記述 「松苓会（同窓会）がどのような活動をしているのか知らない」「活動の周知」

「松苓会活動への参加とは、どのようなことをするのか」など。

予め想定されたが、今回の認知度調査（アンケート）から、松苓会の存在、活動内容についての認知度は、極めて低いことが明らかになった。本調査で示された実態にどのように対処するか。その対策を立て着実に進めていくことが急務だ。

以上

### ホームカミングデーの案内

学園祭（創縁祭）開催期間中に本年度のホームカミングデーを次のとおり開催します。

日時 令和元年11月2日（土）

10時～16時

会場 九段キャンパス

・公開講座 九段2号館2階

国際政治経済学部土屋茂教授、

文学部伊藤晋太郎教授、同中川桂

教授の講義があります。講義後教

授との交流会も楽しめます。

・交流会 九段2号館2階

恩師、卒業生相互の交流

・卒業生作品展 九段1号館11階

書・篆刻・写真・絵画等の展示

作品展は1日（金）午後も開催

・学園祭模擬店割引チケット配布や

スタンプリリーなどのイベントが

盛り沢山です。

### 卒業生異業種交流会の案内

これまでの「卒業生名刺交換会」を「卒業生異業種交流会」に名称変更して、次のとおり開催します。

日時 令和2年2月22日（土）

17時～19時

会場 ホテルグランドパレス

会費 事前振込み 2000円

当日受付 3000円

開催案内は12月中旬に送付します。

届かない方は、松苓会本部にお問い合わせ

合わせください。



## 二松學舎松苓会新役員

6月8日の定期総会を受けて、新執行部が以下のとおり決まりました。任期は令和5年3月まで。なお地区代表幹事は、総会後の地区支部長間の互選により選出されました。

役員	氏名	卒回	役員	氏名	卒回	役員	氏名	卒回
顧問	雨海博洋	専19	常任幹事	大山由美子	文47	幹事(九州)	永淵道彦	文36
顧問	末吉榮三	専12	常任幹事	高柳幸雄	文49	幹事(沖縄)	金城健一	文38
顧問	神津賢一郎	文27	常任幹事	菅原義博	文53	幹事	小林孝彰	文38
相談役	水戸英則	理事長	常任幹事	高橋映子	文53	幹事	小佐藤修	文41
相談役	江藤茂博	学長	常任幹事	志村孝文	文59	幹事	星野優子	文42
会長	廣田克己	文38	常任幹事	西園隆士	文59	幹事	神河秀春	文47
副会長	持田賢一	文40	常任幹事	渡辺和則	特	幹事	小町邦明	文49
副会長	家永修	文44	常任幹事	助川忠弘	政3	幹事	大山俊明	文50
幹事長	小林公雄	文38	幹事(北海道)	若松顕仁	文56	幹事	山口洋子	文54
監事	小林憲二	文38	幹事(東北)	齋藤裕文	文38	幹事	小西明德	文60
監事	田邊義博	文47	幹事(関東)	矢澤喜成	文50	幹事	小町泉寿郎	文60
常任幹事	新井喜義	文37	幹事(中部)	坂井福作	文42	幹事	中原敬二	文62
常任幹事	平野光治	文40	幹事(近畿)	武内昭徳	文47	幹事	山崎真之	政4
常任幹事	金井康文	文41	幹事(中国)	小谷章公	文38	幹事	神宏昭	政9
常任幹事	清水登文	文42	幹事(四国)	上田善達	文38	事務局	間宮美喜	文83

## 副会長に就任して

副会長 持田 賢一



先ずは、新井・山崎、両前副会長のご尽力に敬意と感謝を表します。お二人を見習い、

微力ですが会長を支えて務める所存ですが、浅学非才の身ゆえ、皆様のご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

二松學舎は「今までの140年、これからの140年」、松苓会も「今までの85年、これからの85年」その節目に、会長の諮問を受け、「基本問題検討委員会」で松苓会の課題を検討し、総会で示した通りの答申に至りました。

副会長 家永 修



この度、副会長を拝命しました家永修と申します。チョーク一本・舌先三寸の渡世でございまして、6年前から九段の附属高校で「論語」担当の一人として今も教壇に立っております。

昨年度、東京都支部の講演会に久しぶりに参加しました。

その後、「歴史文学散歩」に東京、神奈川と参加し、研修と親睦を深めました。3月には松苓会の縁で「朗読の会」に招かれ、「吟詠」をする機会を得ました。「之を知る者は、之

た。過去を省みて今後のあるべき姿を生み出さねばなりません。まさに「温故知新」の実践です。

日経新聞で「改革に向かわない大学は、立ち行かなくなる」という記事を目にしました。二松學舎大学は、伝統に加え新しい取り組みをしています。今や松苓会にも同じことが求められていると言えましょう。

二、三十年前、急激な社会の変化で、教育現場は「変化への対応」を問われ、苦慮した経験があります。しかし、どんなビジョンや施策を掲げても、その実現は関係者の意識改革しだいでした。松苓会の存続と発展のために、皆様の温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。

を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」(論語・雍也)とは人生の極意に違いない。

「道に志し、徳に拠り、仁に依り、芸に遊ぶ。」(論語・述而)「志すところは道、立つところは徳、仁愛の心を離れることなく、自由な心で学芸を楽しむ。」は日々の指針です。

役員経験もなく、不案内ではありますが、やれることは何でもやるつもりです。何卒ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

最後に、廣田克己会長初め諸先輩方、学生会員を含めて若い世代の皆さんの力になれるよう研鑽を積む所存です。

### 学生会員だより

#### 創縁祭2019案内

宮下凌輔

創縁祭2019責任者を務めさせて頂いておられます。文学部国文学科3年の宮下凌輔です。

例年どおり、今年も創縁祭を開催する運びとなりました。今年のテーマは「Etoile（エトワール）」。コンセプトを「創縁祭に関わるひとりひとりが輝ける星となれるような色褪せない夢を作りたい」と定め、意識を一つにまとめました。

参加予定団体数は約40と多く、ご来場していただいた皆様が、充実した時間を過ごせるよう、役員一同準備を進めております。団体の参加形態はさまざま、教室での発表、作品の展示をはじめ、中庭における模擬店発表などがございます。ぜひ足をお運びいただき、ひとりひとりの輝きをご覧ください。

#### 学園祭実行委員会夏合宿

創縁祭2019に向けて、8月5日から7日に伊豆長岡温泉にて夏合宿を行いました。

合宿中の目的は学園祭に向け絆を



合宿中の作業の様子

深めつつ、学園祭を成功させるために集中した作業時間を設けることとしました。

合宿中は毎日、午前中から昼過ぎまでを作業時間とし、役員が各々の仕事をこなして

ました。夕方以降は自由な時間とし、近場の海や水族館に行き、それぞれが夏を満喫している様子でした。

合宿地は立地もよく、天気にも恵まれ学園祭に向け良いスタートが切れたのではと思っております。

#### 『北原館』でリーダーズキャンプ

郷司恭平

クラブ連合会執行部文化クラブ連合会委員長を務めております。文学部国文学科3年の郷司恭平です。

2019年2月9日から11日にかけて、千葉県南房総市にある『北原館』において、平成30年度リーダーズキャンプを行いました。

リーダーズキャンプでは、平成30年活動報告、平成31年度活動予定、平成30年会計決算報告、平成31年会計予算案の4つの議案について、クラブ連合会所属団体の各団体代表、



合宿参加の学園祭実行委員

会計の方に報告していただきました。報告内容については、質疑応答のうえ、クラブ連合会所属団体からの承認を得ました。なお、この会議で承認を得られなかった団体については、令和元年度前期クラブ総会にて再報告をしていただきました。

今回のリーダーズキャンプでは、文芸愛好会の同好会昇格に關しての承認も取りました。文芸愛好会は令和元年度より文芸同好会として活動を行っていただいております。

会議終了後には、ささやかながら懇親会を開催しました。懇親会は全団体の代表者の方々に交え、クラブ執行部員も歓談の輪に入り、終始和やかに進めることができました。参加していただいた方々には、よい時間を過ごしていただけたものではないかと感じております。

今年度もまたリーダーズキャンプがありますが、昨年度の良い部分を吸収し、また改善すべき点についてはしっかりと見直し、より良い会議を行えるよう、クラブ



クラブ連合会執行部員

執行部としての活動を行っていく所存です。

### サークル紹介

#### 落語研究会

須田智大

落語とは、江戸時代からの歴史を持ち、庶民の間で広く親しまれた日本が誇る伝統芸能にして大衆芸能。噺の最後に「オチ」がつくのが特徴で、歌舞伎など他の伝統芸能と異なり、身振り手振りのみで話を進め、一人何役も演じます。衣装や舞台装置などを極力使わず、演者の話術と聴き手の想像力だけで物語の世界が広がっていく、とてもシンプルな話芸です。

二松學舎大学落語研究会ではそんな落語の魅力に取り憑かれた部員たちが、落語の実演に挑みます。毎年、以下の予定で寄席（落語や漫才などをを行う公演のこと）を開催し、それに向けて日々落語の稽古に励んでいます。3月・新幹部お披露目公



高座発表





落語研究会

演「うらら寄席」  
 ・4年生卒業公演「みてくれ寄席」  
 ・國學院大学落語研究会との合同寄席「文々寄席」  
 6月  
 ・九段祭POP「あおい寄席」  
 9月  
 ・1年生お披露目公演「かわわれ寄席」  
 11月  
 ・創縁祭「嘶、寄席（てんではなしにならないよせ）」  
 その他、2月に行われる学生落語の全国大会「策伝大賞」への出場、老人ホームや児童館での出張公演など、様々な活動を行っています。

新入部員のほとんどは落語初心者です。私も落研に入るまではテレビやYouTubeで何度か落語を聞いたことがあるだけで、自分が人前で落語をやる日が来るとは夢にも思いませんでした。長い台本を覚えるのは大変だし、本番のときは今でも緊張しますが、自分の落語を聞いたお客様が笑ってくれると、落研に入っただけかと思えます。

現在、部員数は1年生8名、2年生3名、3年生4名、4年生6名の計21名。授業がある期間は平日月曜から金曜までの週5回活動を実施しております。活動では、一人ずつ部員の前で落語をやり、その後他の部員から講評をもらいます。

二松學舎大学落語研究会、次回の公演は11月2日、3日の創縁祭「嘶、寄席」を予定しております。私たちの日頃の練習の成果、ぜひとも会場でご覧ください！部員一同お待ちしております！

**アカペラサークル  
Voice of Nation**

田村万葉

二松學舎大学アカペラサークルVoice of Nationサークル員の国文学科3年の田村です。私の所属しているVoice of Nationは男女、学年混合の約60名在籍しており週2日九段キャンパスで楽しく活動を行っています。

私たちが行っているアカペラと



アカペラサークル Voice of Nation

は、楽器を使わずに自分たちの声だけで音楽を奏するというもので、リードボーカル、コーラス、ベース、ボイスパーカッションなど1人1つのパートを受け持つ4〜6人でバンドを組んで演奏します。演奏する曲は邦楽、洋楽、アニソンなど様々なジャンルのもので、それらをアカペラにアレンジして歌っています。ご覧になられた方もいるかもしれません。

せんが、最近ではハモネプリーグというアカペラの上手を競う番組も放送され注目を浴び、じわじわと人口が増えつつある音楽ジャンルであると言えます。私たちのサークルにも、歌が好きな人、もともと楽器をやっていた人、ボイスパーカッションをやってみた人など多くの人が所属し、アカペラを大学で初めてやるという人がほとんどですが、各々バンドを組んで上達のために日々練習に励んでいます。

練習成果の発表の場として、私たちは年に4回ほど外に向けたライブを行っており、近々では11月2日、3日に行われる創縁祭でもライブを行わせていただきます。サークル内のバンドの多くが出演いたしますので、もし興味を持っていただければぜひVoice of Nationの教室までぜひお越しください。



舞台での発表

**学生の活躍**

**第62回短歌研究新人賞受賞**

国際政治経済学部3年の郡司和斗さんが第62回短歌研究新人賞を受賞しました。『短歌研究』(短歌研究社)令和元年9月号に、受賞作30句「ルーズリーフを空へと放つ」が掲載されました。

郡司さんは、「盛岡の短歌甲子園への出場をきっかけに作歌を始める。平成30年の春に句誌『蒼海』入会、夏に「歌林の会」入会。令和元年かりん賞受賞。松風短詩会運営」(『短歌研究』略歴欄)と紹介されている。松風短詩会は、大学内のクラブ。

**『週刊読書人』に2学生の書評**

『週刊読書人』の「書評キャンペーン」大学生がスズメル本「欄」に文学部国文学科1年の近藤里咲さんによる石川佳子編『竹久夢二詩画集』の書評が8月23日号に、国際政治経済学部3年の郡司和斗さんによる長嶋有著『新装版春のお辞儀』の書評が9月20日号に掲載されました。

関連して、千代田区立千代田図書館では、『週刊読書人』が連載の「書評キャンペーン」をセレクトションして、「いまどきの大学生解体新書」の企画で大学生によるお薦め本と書評を紹介しています。8月26日から9月21日までの期間、本学の近藤里咲さんに加え、文学部中国文学科4年の宮下洋平さんによるメアリー・マツカーシー著『私のカトリック少女時代』の書評も展示されました。

**平成30年度学生褒賞  
個人30人、2団体**

平成30年度の学生褒賞の授与式が、4年次生は、3月14日(木)の卒業式後と同じ会場(中野サンプラザ)で、3年次生以下の在学生は、3月18日(月)に大学内で行われた。

平成30年度の表彰は、個人30人、2団体。内訳では、個人では、全日本きもの装いコンテスト世界大会準女王に輝いた学生、第35回読書法展、第70回毎日書道展U23、第103回書道展など各種の書道展で優秀な成績を収めた学生25人、体育系では、東都大学軟式野球春季・秋季リーグ戦で活躍した軟式野球部の4人合計30人。団体は、第103回書道展で優秀団体賞

**平成13年度以前の卒業生の方へ  
終身会員手続きのお願い**

松茶会の運営資金は、ほとんどが終身会員の会費で賄われています。終身会費1万円を納入していただき終身会員になり、会報の毎回送付やホームカミングデーの案内が毎年届くようになります。終身会員の手続きをとられるようお願いいたします。



を受賞した書道部と第25回よませ全国学生スキーチャンピオンシップで女子団体優勝に輝いたVOGEL R.S.C.の2団体。学生褒賞は、平成29年度から、大学、父母会、松茶会の合同表彰を行っている。

**寄付金のお願い**

松茶会では、会の発展のために会員の皆様に寄付金のお願いをしています。松茶会の事業推進と財源確保のために、1口千円で寄付金を募っています。ご協力をよろしく願っています。

**表紙写真**

今回の写真は大学九段1号館地下3階の「大学資料展示室」です。展示室では企画展を開催し、創立者三島中洲や、漢学塾二松學舎で学んだ夏目漱石、嘉納治五郎をはじめ、二松學舎ゆかりの人々の遺墨遺品や、和書、漢籍など、貴重な資料を順次展示しています。また、三島中洲の生涯や二松學舎大学の足跡、本学で学んだ著名人等をパネルで紹介しています。

**編集後記**

卒業生、学生の活躍に心躍る◇二松の学風は令和の世にも健在である◇小生、この夏古里佐賀でOB諸子と会った◇お国言葉で学生時代の狂気と退職後の研究を語る先輩は実に頼もしかった◇故郷を離れて故郷を思う◇母校を離れて母校を慕う◇離れて初めて知る人の世の情け、老いもまた楽し、である◇新しい酒は新しい革袋に盛る◇  
今号から新しい編集子も加わりました。お声をお聞かせ下さい。

二松學舎  
松茶会報  
No.62

創 刊 昭 和 62 年 12 月 1 日  
発 行 令 和 元 年 9 月 30 日  
編 集 所 二 松 學 舎 松 茶 会  
住 所 〒 102-8336  
電 話 東 京 都 千 代 田 区 三 番 町 6-16  
振 替 口 座 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914  
印 刷 00180-5-160343 (郵便局払込取扱票)  
 (株)サンセイ



二松學舎大学(松茶会)  
ホームページ [www.nishogakusha-u.ac.jp](http://www.nishogakusha-u.ac.jp)  
松茶会 E-mail [shourei@nishogakusha-u.ac.jp](mailto:shourei@nishogakusha-u.ac.jp)